

完成した県営テニス場。青と緑色が映えるハードコートが整備された＝9日、福井市



新設コートは「打ちやすい」

来年の福井国体の会場となる県営テニス場（福井市）が完成し9日、浅越しのぶさんらプロ5選手と県内選手が交流するイベントが行われた。選手や県協会関係者ら約500人が完成を祝い、青と緑色が映える真新しいハードコートでのプレーや観戦を楽しんだ。
（三好悠馬、佐々木紀光）

福井・県営テニス場完成 プロと県内選手 交流

新テニス場はこれまでの12面から16面に拡張され、4面分計6基の夜間照明設備が新設された。供用が始まった9日には、8面を使って県シングルストーナメントB、C級が開かれた。福井国体では硬式テニス少年男女の会場として使われる。この日はオープンング



この日はオープンングマッチとして県内のジュニア選手とプロとのダブルス戦が企画され、それぞれ鮮やかなサーブエースやボレーを決めるたびに歓声が上がった。浅越しのぶ・手塚玲美ペアと対戦した仁愛女高2年の押川千夏さんは、プロのレベルに接し「重くて速い球で、コースも鋭かった」。また新しいコートは「打ちやすかった」と話していた。

幼児・社会人選手を対象にした教室には約200人が参加した。小学生たちは、林恵里奈選手（県体協）らに球出ししてもらって左右に打ち分け、プロとのラリー練習にも挑戦。浅越プロから「待っている間も足を動かして、次のプレーへの準備をしておくように」とアドバイスされると、すぐに実践していた。参加した小学生らは「プロのように、いろいろな球を打てるようになりたい」などと話し、刺激を受けた様子だった。

県協会国体委員会の小林和彦委員長は「国体で勝つことを目指して、この新たな拠点をジュニア育成に活用していきたい」と話していた。



浅越プロ（右から3人目）らに基本プレーを教わる小中学生選手たち

らって左右に打ち分け、プロとのラリー練習にも挑戦。浅越プロから「待っている間も足を動かして、次のプレーへの準備をしておくように」とアドバイスされると、すぐに実践していた。参加した小学生らは「プロのように、いろいろな球を打てるようになりたい」などと話し、刺激を受けた様子だった。